

令和6年度第2回月形町総合教育会議顛末

- 1 日 時 令和6年12月19日（木）午後3時30分～午後4時11分
- 2 場 所 大会議室
- 3 出席者 上坂町長、藤原副町長、兼平教育長、岸上教育長職務代理、目黒教育委員、
上葛教育次長、野本主幹、加藤主幹、西川学務係長、今井社会教育係長、
五十嵐学務係主査、原総務課長、會田総務課総務係長 計13名
- 4 顛 末

（午後3時30分開会）

【原総務課長】

お疲れ様でございます。予定の皆様お揃いになりましたので、令和6年度第2回月形町総合教育会議を開催をさせていただきます。会議の開催にあたりまして、上坂町長よりご挨拶申し上げます。

【上坂町長】

本年度第2回目になりますけど、総合教育会議をただいまから開催したいと思います。

お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。今日、義務教育学校の整備について改めて総合教育会議で話題にしていなかったこともありまして。今日、開催することになります。どうぞよろしくお願いします。

【原総務課長】

はい、それでは3番の議件以降につきましては、町長の進行ではありますけれども、まずは（1）の「義務教育学校の整備について」、町の考え方をお伝えさせていただきます。

【上坂町長】

お手元に義務教育学校建設見直しっていう記事が載っていると思いますが、総合教育会議で、このことについて確認等していなかったこともあって、改めて整備をするという形で進んできて、校名まで決めようという段階にありますけど、この報道によって建築を

止めるんじゃないかというような声もありましたし、いや、予定どおりやるべきじゃないかという声にもわかに上がったり、そんな状況にありまして、今日、皆様のご意見をお聞きをしたいという、そんな経緯があります。私は直ちに立ち止まるというふうに言ったのは、非常に建築費等が上昇して、月形の財政状況について、非常に厳しい状況にあるということも含めてですね、今一度立ち止まって、費用の賄い方、そういったことも含めて検討をするということで、建築を止めるとか、そういうことで立ち止まるということでは、見直しをします。ゼロベースで見直しをすることではないというふうに現段階では思っております。そういった意味で、改めてこの総合教育会議で、皆様のご意見等もお聞きし、また、今、財政上の見直し、それからその辺の裏付け等も含めて検討に入っておりますけど、皆さんからご意見をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

【兼平教育長】

町長のご心配については、理解するところではあります。ただ、これまでも述べてまいりましたけれども、この機会ですので、教育委員会の現在の考え方について、述べさせていただきます。

今回の実施設計で事業費が増加して、町長ももちろん、多くの町民の方々がご心配されているってということについては、教育委員会としても充分理解しているつもりです。ただ、結論から言えば、新しい校舎の建設費だけではなくて、もし建設を断念した場合に見込まれる既存校舎の改修費や維持管理費、これも同様に物価高騰で増加しておりますので、新しい校舎を建設しても、既存の2校の校舎を維持していても、経費はあまり変わらないというふうに考えています。この辺については、後ほど、次長に説明させたいと思っておりますけれども。そうであれば、2校を1校に統合した方が維持管理費も大幅に削減できる見込みですし、今後、町の財政も厳しくなっていくというふうに聞いております。そうであればなおのこと、この学校統合の取り組みが、ほかの公共施設の統廃合などに先駆けて今後の町の財政健全化に向けて重要な役割を果たしていけるのではないかなと考えているところです。全国的な状況を見ても、今、非常に義務教育学校の設置が急激に進んでい

ますので、次々に計画が報道されるところですけれども、これは、今後、児童生徒数の減少っていうのが基本にはありますが、それ以上に財政的にメリットがあるっていうことで進んでいるというふうに私は理解しております。そういう財政のメリットに加え、当然ながら教育面でのメリットとか、それから教育効果、これも大きいのは事実です。新しい校舎で9年間、子どもたちの将来像を見据えて、取組が可能となりますし、小中が一体となることで、教職員の人材確保もしやすくなります。そういう形で子どもたちへの指導とか、サポートも手厚くすることができると考えております。計画しております校舎では、教室に多目的スペースが隣接するという形で設置されるとか、最新の教育環境で子どもたちの成長を育むことができるのではないかと考えております。元々、学力が高く、力を持っている月形の子どもたちであるからこそ、さらに質の高い教育が可能であると考えますし、町外に向けても大きな発信力となり得ますし、今後のまちづくりにおいても、重要なファクターになるんじゃないかというふうに考えているところです。

今現在、開校準備委員会や教職員を始めとした多くの方々が準備を進めているところでございます。この学校建設を楽しみにしている子どもたちのためにも、計画どおり開校が進むように期待していることを申し上げて、教育委員会の意見とさせていただきたいと考えています。

【上坂町長】

はい、ありがとうございました。岸上委員、何か。

【岸上教育長職務代理】

はい、開校時期は27年度で変わりはないと、新聞で書いてありまして、これはできるものなのかな、どうなのかなって、今の内容でどういうふうに進むのかなっていうのは、今、大きな疑問になっているところです。やはり教育長が言われたように、2つある建物を、2つ走らせるよりも、痛い出費をしても、一本で行ったほうがいいんじゃないかなっていう気は、しないでもないです。建築費がこれから下がることはあんまりないのかなっていうふうに思っているんで、それはどういうふうになるのかなっていうふうに、疑問として

思っております。

【上坂町長】

はい、これは私の思いを述べた記事になったんじゃないかと思ってますけど、具体的に開校は、予定どおりっていうようなことでは、あんまり考えていなかったんで、この記事が全町民やいろんなところで話題になっているということは、きっかけにはなったと思ってますんで、反省をしております。

目黒委員、何かございますか。

【目黒委員】

この義務教育学校を始める時にあたって、町長さんは、すごく意欲的で、杉の使用などの案を出していたので、この報道の時に正直驚いたんですよ。ですけれども、教育委員会の説明も聞いて、開校を目指しているところで、待っているような話もありますので、やはり修繕費も2校だと相当かかるということで、1校にした方が、維持費なども抑えられるということで期待をしています。

【上坂町長】

はい、ありがとうございました。

【上葛次長】

先ほど教育長から、説明のありました教育次長に財政面について、説明させるということでございましたので、私の方からその分補足させていただきたいというふうに思います。

私、教育次長の上葛ですけれども、こちらの方の財政の考え方について、ご説明させていただきます。現在、実施設計を行っておりまして、9月末の途中経過として、事業費が設計、建設、解体、学校備品など全て含めまして約47億円と増加しております。補助金や特定財源を差し引いた町の実質負担は、約14億円と試算しているところでございます。この実質負担を仮に償還期間30年と仮定すると、年間5,000万円弱の単年度経費となります。既存の2校を維持する場合も、今後、大規模改修が必要であり、費用は1校あたり10億円程度の予算規模になるものと想定しており、2校の場合は20億円程度の予算規模の

想定となります。大規模改修の場合は、補助率も低く、町の実質負担については、新しい校舎を建設する場合とあまり変わらないものと考えております。加えて、既存の建物は現在で築 50 年を迎えようとしており、この年代の建物は、一般的に 70 年程度が使用限度とされ、新築と同じ経費をかけて改修しても、今後 20 年程度しか使用できないということになります。従いまして、同じ経費をかけて 60 年、80 年と使用できる建物を新築するか、20 年程度しか使用できない既存校舎を改修するかという点、これは比較するまでもなく、新築の方が有利と考えているところでございます。また、現在、維持管理は 2 校で 5,000 万円程度かかっております。新しい校舎は ZEB Ready の環境性能を予定しておりまして、2 校を 1 校にすることにより、半分とは言いませんけれども、かなりの維持管理費の削減ができるものと考えております。結果的に早く統合すればするほど、その効果はより高いものになると思いますし、遅ければ遅いほど、今後の労務単価の上昇をはじめとした建築工事費の増加が懸念される点でもあります。既存中学校の増築等の方が良いのではないかという話も浮上しております。そのような話も聞こえてきているところでございます。こちらについては、令和 3 年度に設置した、月形町義務教育学校設置審議会でも十分に議論され、審議会としても新築の方が有利として、答申をいただいたところであり、協議経過は、ホームページにも公開されております。先ほどのとおり、既存の中学校校舎を改修し、不足教室を増築したとしても、既存の中学校校舎を 20 年程度で建て替えしなければならないことを考えると、今回、新築することが財政面でも、教育面でも最も良い選択になるものと考えているところでございます。説明につきましては、以上でございます。

【上坂町長】

はい、ありがとうございました。今日、副町長にも、同席っていうか、来ていただいております。立ち止まるっていうふうに判断した、大きな財政負担という点、このことについて、副町長説明してもらえますか。

【藤原副町長】

はい、11 月 1 日から副町長という発令をいただきました藤原でございます。どうぞよろ

しくお願いいたします。

説明させていただきますけれども、一応、一旦立ち止まるということで、12月の定例町議会におきまして、定例町議会の終了後、本会議の終了後、議会全員協議会というのがございまして、その中で町長の方から説明をされた内容でございます。その説明の内容に至った経緯でございますけれども、一番大きな要因として財政推計を担当の方で行ったところでございます。その前、11月に総合振興計画の実施計画。このヒアリングを各担当部署から、いろんなこれからの各事業、特に大型事業、月形の生活に係る事業、こういった、例えば道路の整備、それから橋梁の整備、それから衛生センターの汚水処理施設の改修、あるいは下水道施設の市南と北農場の統合も将来、進めていかなければならない。それから、今、期成会が立ち上がっております篠津運河、この上流地域、特に昭栄地域周辺ですけれども、こちらの土地改良、基盤整備事業というのが、今現在では令和9年、あるいは令和10年から事業着手されてくる予定でございます。この受益者負担の一部負担も、町の方で対応するということが見込まれておりまして、これも年間約1億近い歳費が数年間続くというようなことが、今の段階では予定をしているところでございます。それから、今回、義務教育学校を中学校の方の敷地に新築するということで、残った月形小学校の跡地。これは従来からご存知のとおり、地域拠点化施設ということで審議会にかけさせていただきまして、その答申としては、進めていくと。ただし、その進める時期については、何年ってというのは、特に指定されておられませんけれども、進めていくということで審議会の答申をいただいているところでございます。こういったところの地域拠点施設の整備も検討して、この義務教育学校と同時に地域拠点化施設の今後の処遇も当然説明していかなければならないというような状況でございます。大きな事業は、今、申し上げましたけれども、それ以外に農業後継者の問題、こういったところにテコ入れしていかなければならない。それから新規就農事業についても事業をこれまでやってきておりますけれども、さらに拡大していかなきゃならない。この月形の基幹産業である農業、こういったところをしっかりと守って進めていかなければならないというような観点と、各部署から必要な事業が上が

ってきておりまして、この財政推計の中で、月形町の基金がそれぞれございますけれども、財政調整基金、これが約8億程度ですね、それから減債基金というのがありまして、これも確か約5億程度、それから公共財産整備基金というのがございまして、これも約11億というような基金残高の状況ではあります。財政推計の中では、この財政調整基金、これが、今後、経常経費が上がって行くということで、現在の収入の見込みでは、どうしても不足するということで、この財政調整基金を投入することが必要だということで、この財政調整基金というのは、見込みとしては、令和11年度で底をついてしまうということになります。それから減債基金、これは月形温泉、それから道の駅等々の改修費用に充てていかなければならないと。これも約5億程度だったと思いますけども、これもほぼ使い切ってしまうと。それから義務教育学校整備をした場合に、公有財産整備基金、これが11億ありますけども、償還財源にこれを充てていくと、約10億充てるように見込んでおりますけれども、残り1億程度ありますけれども、これも通常の道路の整備、それから橋梁の整備、こういったところでほぼ底をついてしまうだろうということで、いろんな側面から、財政推計をしております。推計上では、12年度から収支、収入が不足ということで、1,700万程度、13年では1億以上の財源不足が生じるであろうという推測で、これはあくまでも推測ですので、変動はあります。必ずこうなるとは言い切れませんが、こういったところを推計して行く中で、もう少ししっかり検討してですね、整備する方向と、それから今の現在の学校を存続する形と、両面で推計を出していく中で、精査をして、もう少ししっかりと検討する必要があるのではないかなということで、一旦、町長の方のから述べたとおりでございます。

【上坂町長】

はい、ありがとうございます。今、委員の皆さんは、予定どおり進めて欲しいというご意見も賜りました。ただ、財政推計上、今、副町長が話しているような状況にもあると。ただ一方では、じゃあ学校の運営は、日々続けていかなきゃならない。その中で修繕や改修等も次長が話したような大きなお金が動くということも含めてですね、改めて私は立ち

止まるというか、まさに、今、言ったようなことについて、改めて総合的に検討し直す期間が必要だろうというふうに判断をするわけですけど、こういった状況にあるという、現時点でですね、総合会議で確認をし、そしてもう少し情報を集約をして、そして然るべき判断をして行くというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

【兼平教育長】

はい、最終的には町長の判断だと思います。ただ、要点は、今、副町長の説明も含めて、よく分かるところがあります。確かに不安に思っているところもありますので、そこを払拭できるようにということは、とても大事なことだと思います。ただ、これまでも申し上げましたとおりで、一定の時期を過ぎてしまうと余計お金がかかってしまって、結局、財政を圧迫する形になるのではないかというのが非常に懸念しておりますので、その辺を十分に考慮していただいて、しっかりと判断していただきたい。

【上坂町長】

今、お話ししましたように、そして、皆さんに広くこの新聞報道が、まずは町民の皆さんが、この後どうなるんだと、もう止めるのかと、目黒委員が言いましたように、町があんなにやるって言ってたのに、止めるのかというような心配もされているというふうに思いますんで、そういう意味でも総合教育会議で、この義務教育学校の進捗状況、そして整備についてですね、これまで協議というか議論してこなかったわけでした、改めて基本設計が出来上がり、そして費用がこのような形になって、それをどういうふうに、当初の推計では38億ぐらいで済むんじゃないかと、そういうことであればなんとかやれるんじゃないかということの中で、暗黙の中で進んできたんですけど、改めて基本設計で、実際にやる工事の費用と、このことを土台に、改めてしっかりとみんなが納得するような形の中で、財政の裏付けも含めて、そして先ほどありましたように、未来を担う子どもたちが、校名まで決まる寸前まで行って止めるのかというようなことも心配しているわけですから、できるだけ早く、早期に財政の裏付けも含めて、然るべき時期に、改めて建築、その他の判断をしたいということで、総合会議としてはですね、ご了承していただいたということ

でよろしいですかね。そうことで、今日の会議についてですね、改めて義務教育学校の課題等、総務課長何かありますか。

【原総務課長】

ありません。

【上葛次長】

はい、一点だけ確認なんですけれども、今現在、開校準備委員会が進んでおりまして、そちらの方の動きというのは、どのように考えているかということをお聞かせ願えればと思います。

【上坂町長】

これもちよっと立ち止まる。準備は、どうですかね教育長。

【兼平教育長】

町長が考えていらっしゃる、その立ち止まる期間の問題になってくると思います。これが長引くのであれば、やはりどこかで説明が必要だと思いますし、ただ可及的速やかに町長が決断されるというのであれば、その決断を待った方が良いのかなというふうに思いますし、それによろと思います。

【上坂町長】

私は、いつまでも、何か財政状況とか、そういうことについても大きく変わるわけじゃないし、今、2校を1校にして、そして修繕してやった方がいいのか、いろんな案が。そして新築の方は、今、お金のことも含めて出てますけど、そういったことについてですね、改めて情報を一つにして、そして、お金のことについて検討するというのは、そんな時間を掛けていられないし、掛かるはずがないんで、準備委員会の方については、日程的なものは、そんなに時間をかけないで、最終的に判断をしたいというふうに思っています。そして、この会議も含めて、議会も含めて、皆さんにこのように判断をしたということを表明したいと思うので、その開校準備委員会との関係性っていうのは、あまり私も見えない部分があって、あれですけど、そんな1年も2年も掛ける話ではないと思ってます。副町

長。

【藤原副町長】

ちょっと時期はですね、今、はっきりとは申し上げるのは難しいですけども、先ほど説明したとおりですね、新築で行く場合ですね、推計は、ある程度数字は、あくまでも推計数字ですけども、何とか出して出来上がってきて。それからもう一つは、今の学校をそのまま存続した場合、どの程度の経費が出てくるのか、先ほど言った、この先 20 年程度しか持たないってということも含めてですね、どちらの方が有利なのかっていうのは、やっぱり両方、その根拠は示した上で方向性を決めないと、皆さんもそうでしょうし、役場職員、それから町民の方々の方にも、やっぱり説明責任はあると思いますので。その 2 つのケースになろうかと思えますけども、しっかり検証してですね、精査した中で判断して行くという形にして行きたいと、こういうふうには思うんですけども。ただ、じゃあそれがいつかということは、ある程度数字を出した上で、時期的なものも判断して行くべきかなと思ってますので、ちょっと今の段階では、いつということは、はっきり申し上げられないのかなと思います。

【上葛次長】

直近で差し迫っているのはですね、今、校名を 3 つに絞って、これから児童生徒にアンケートするということで止まっているということなんですよね。ですので、その期間を、今、保留にしていますので、それをどのくらい保留することになるのか、その辺は、やはり子どもたちや、それから、ある程度、開校準備委員会 みなさんにお話する必要があるのではないかなと思ったので、このような確認をさせていただきました。

【上坂町長】

もうちょっと待ってもらって。

【兼平教育長】

基本的には可及的速やかということですけども、その進展によって、今後ちょっと調整させていただくということで、この場は納めたいと思えますけど、よろしいでしょう

か。

【上坂町長】

校名は決めたけど、学校は、10年後、20年後だっていうんじゃ、おかしい話だしね。だから、それはちょっと、もうちょっと待っててもらって。

【兼平教育長】

繰り返しになってしまうかもしれませんが、先ほどいろいろ出てきましたけれども、例えば、その校舎の維持とかですね、中学校の校舎にとか、いろんな論議ありました。準備委員会の中で、段階を追ってきちんと検討して、結果というのがありますので、ぜひ、そのあたりの経過もですね、失礼なお話なんですけれども、十分踏まえていただいて、手順踏んで、しっかりと検討した結果ということですので、その辺を今一度ご確認いただいて、ご検討いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【上坂町長】

他に何かありませんか。なければこれで終わりたいと思いますけど。

(なしの声)

本当に申し訳ありません。ただ、子ども達が楽しみにしていることは、私も肌を、身をもって毎朝感じております。なんとか義務教育学校の設置に向けて準備を進めていきたいというふうに思っておりますけど、財政が破綻しては、それも水の泡になります。なんとか早急に、今、言われました形の中で検討して、然るべき判断をして行きたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

【原総務課長】

はい、お疲れ様でした。以上もちまして令和6年度第2回月形町総合教育会議を閉じたいと思います。おかえり雪道ですので、十分、気をつけてお帰りいただきたいと思います。お疲れ様でした。

(午後4時11分閉会)